

*Claudius: How is it that the clouds still  
hang on you?*

*Hamlet: Not so, my lord, I am too much  
in the sun. — Hamlet*

### ●応用編の「はじめに」

今回は、これまで説明してきた論題充当性の理論的な議論を背景として、実際の試合に向けて、どのような準備をしておくべきか、あるいは試合中に出てきた論題充当性の議論にどのように対処していくべきかについて、実践的な観点から解説を行なっていききたいと思います。

まずは、へんてこな論題充当性の議論が出てきても慌てず騒がず対応できるようになるために、肯定側の心得と対策から説明していきましょう。

### ●まずは心の準備として

まず、論題充当性は、「ほとんどの論題のほとんどの試合で提出される可能性がある」と想定しておきましょう。例外は、固定プランが設定され、かつその固定プラン【のみ】で試合が行なわれる場合ぐらいのものです。今回のディベート甲子園の中学論題「レジ袋税の導入の是非」においても、固定プラン以外にプランの細目(プランク)を設定することは許容されています。ということは、その部分について、論題充当性が挑戦される可能性が残るということです。

では、否定側から挑戦されるであろう論題充当性の議論から肯定側のプランをどうしたら防御できるのか、準備の段階から遡って、一般的な対策を述べて行きます。

### ●肯定側が行なうべき試合に向けた準備

#### ① 論題に関する基礎情報を収集する

「炭素税」論題を例にとれば、まずはとにかく

炭素税とは何かを知らなければなりません。この段階では、環境省等の政府機関が発表している資料や専門家の解説などにできるだけ広くあたって、炭素税とは何なのか、おおよその理解を得ておきます。

#### ② プランを検討する

上記①のリサーチの結果をふまえて、プランを検討し、そこから出てくるメリットとあわせて、立論として取りまとめます。

→ここまでは、通常、試合に臨む際、どのチームも間違いなく行なっている準備ですが、論題充当性対策を視野に入れた場合、さらに以下の準備が必要になってきます。

#### ③ プランを包摂するよう肯定側定義を検討する

この作業は、否定側から挑戦される論題充当性の議論に対して予防線を張る準備です。論題上のすべての語句に対して、合理的な解釈を与え、定義を用意してください。この際、「救急車」や「税」のように一見意味が明白そうに見える語句もおそろかにしてはいけません(どの語句に対しても、論題充当性は成立し得るということをお忘れなく!)。ここでは、肯定側プランが、どのような意味で肯定側定義に合致し、包摂されるのかを確認しながら作業をすすめてください。

ただし、ここで論題上のすべての語句に肯定側定義を与えてみるのは、あくまで論題充当性対策としてです。立論の中で、準備した定義をどこまで読み上げるかは、ケースバイケースの判断になります。仮に、一見論題充当的で「ない」ようなプランの細目を提出することになったのであるならば、その細目に対応する定義は、試合中の議論であることを明示する趣旨から、立論の中でしっかり説明しておくのがよいでしょう。

#### ④ 肯定側定義を支える証拠資料を探す

肯定側には論題を解釈し、プランを提出する権利があります。基本的に肯定側は、論題解釈を自由に行なつかまいません。

しかし、その定義が合理的かどうかは、別途検証の対象になります。一般的でない定義には、否定側が論題充当性を議論してくるかもしれませんし、ジャッジに「何か変な定義だなあ、論題外くさいなあ」という疑問をもたれる可能性も否定できません。

不合理な定義ではないこと、一人よがりの定義でないことを示すには、「少なくともこのような定義・用例がある」ということを論証する必要があります。

すでに上記③で、肯定側定義は一通り検討してありますので、今度はそれを支える証拠資料を探し出します。とりあえず、出典は、辞書、新聞・雑誌、専門書や専門家コメントのいずれでも構いません。「ほれ、この通り。こんな用法が実際にあるのですよ」と証明できれば十分です。

#### ⑤ 「肯定側定義を採用すべし」について 理論武装を行なっておく

上記④の資料を試合中の議論として提示できれば、肯定側は、論題充当性や論題外性の議論では、かなり負けにくくなります。しかし、本気でこれらの議論を挑戦している否定側は、ここであきらめてくれるとは限りません。

すなわち、否定側から論題充当性等の議論が提出され、肯定側が自らの定義とその証拠資料で対抗した場合、1つの試合の中で、論題上のある語句に対し、2つの定義が存在していることとなります。多くの場合、「肯定側の定義・解釈が不合理でなければ」、肯定側の定義を採用して問題ないとジャッジは考えてくれます。

しかし、否定側にも、最後のねばりとして「否定側および肯定側が出した定義のいずれか一方を選ぶべきだ。そしてこの試合では、否定側定義こそ選ばれるべきだ」という議論を展開

してくる余地が残されています(現行の試合フォーマットの時間は非常に限られていますから、そこまでやってくる否定側が本当にいるかどうかはわかりませんが、あくまでそういうこともありうるということです)。

このような場合、肯定側は、実戦的には、「別に定義を1つに絞る必要はない」ということを再度主張した上で、「仮にいずれか一方の定義を選択するとしても、それは肯定側の定義だ」と応戦します。

解釈の良し悪しを肯定・否定間で争うとき、優劣を定める根拠の1つとなってくるのが、基礎編②で解説した論題充当性の構成要件①「解釈基準」です。例えば、否定側が「辞書」に基づく解釈、肯定側が「専門家の見解」に基づく解釈を提出した場合、そのいずれがこの試合における論題解釈の基準として相応しいのかを議論することになる訳です。解釈の優劣を争う議論の進め方については、今後の検討課題として、各自、さらにご研究ください。

#### ● 「準備の時間がない」人のための奥の手

肯定側のベストの準備としては、上記の作業を⑤まで進めておくことですが、大会直前などは「とてもそこまで手が回らない!」という悲鳴が聞こえてきそうです。

そこで奥の手をお教えしましょう。それは、肯定側で臨む試合には必ず「国語辞典を携行する」ことです。もし試合中に否定側から論題充当性を挑戦されたら、ただちに辞書を引き、問題になったプランの細目を支える定義をその場で考え、その辞書を証拠資料として提示するのです。

とはいえ、臨機応変に対応するのはそれなりに大変です。少なくとも一度はそのような対応を練習で体験しておくのが良いでしょう。

→次回は否定側の心得と準備を解説します。